

釜石製鉄所全景 釜石市は鉄の都であり釜石製鉄所とともに発展してきた。釜石製鉄所は戦争中二度にわたり艦砲射撃をうけ全設備に甚大な被害を蒙り一時機能停止したが今では第十高炉・第八高炉を基幹とする名実ともに銑鋼一貫作業が確立し富士製鉄(株)のホープとなつてゐる。昭和廿四年度の生産実績は銑鉄廿二万六千屯 鋼塊十七万八千屯 鋼材五万四千屯でいづれも割当量を突破している。



金

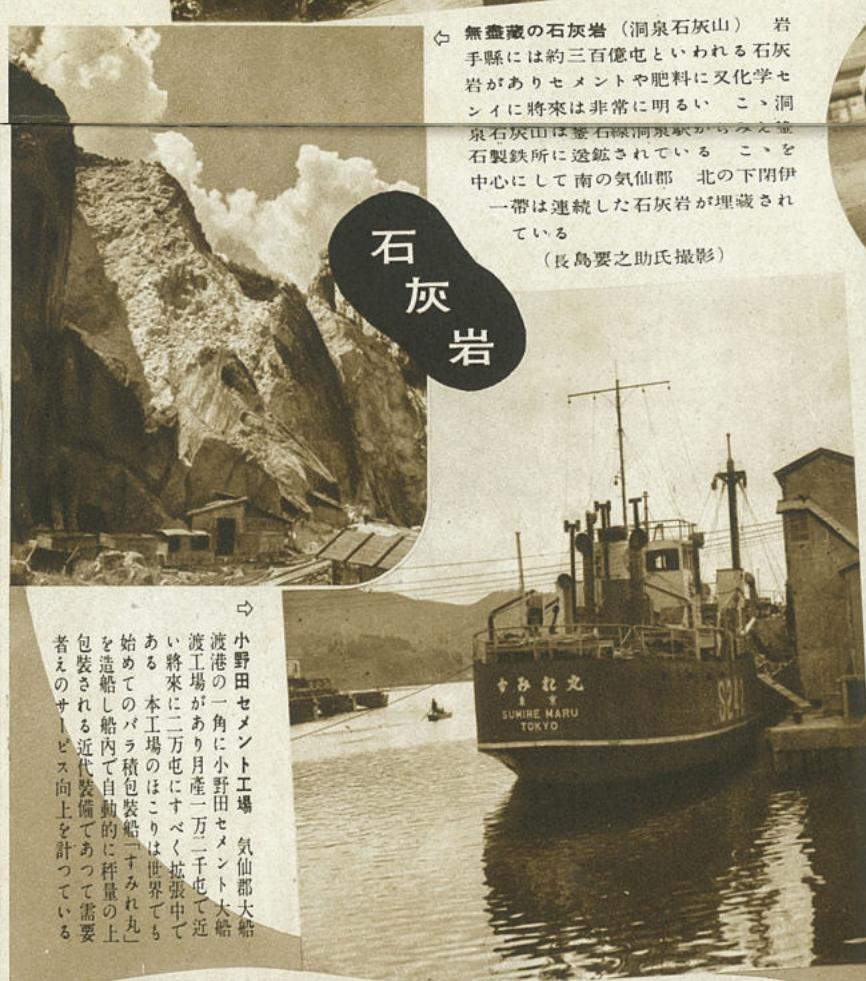
釜石製鐵所圧延工場
釜石製鐵所
鉛炉のはが焼結・焙燒・電気炉・製鋼
圧延・薄板・洗炭・コーケス炉・硫酸
硫安・餌油・ベンゾール・タール
チ・レンガ・工作・火力発電所等の各工
場が力強く稼動している



△無盡藏の石灰岩（洞泉石灰山） 岩手縣には約三百億屯といわれる石灰岩がありセメントや肥料に又化学セメントに將來は非常に明るい。こゝ、洞泉石灰山は釜石線洞泉駅からえど金石製鉄所に送鉱されている。こゝを中心にして南の気仙郡、北の下閉伊一帯は連続した石灰岩が埋蔵されている。（長島要之助氏撮影）



酪農のメッカ岩泉町 石灰岩地帯の牧草は酪農に適している。こゝ岩泉町近くに約三千頭の乳牛がいて毎日百石の牛乳を工場に送っている。毎日新聞やサン写真新聞に報道されて今や日本の酪農のメッカとなりつつある。



石
灰
岩

（長島要之助氏撮影）



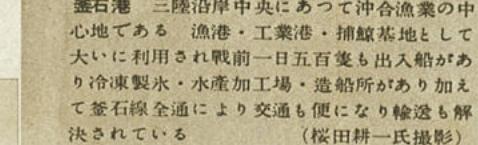
岩泉の乳牛
(深沢省三画伯画)



まぐろ漁業 まぐろ・かつお漁業はハエナ
と定置に分けられるが定置漁業は三陸沿岸
リニア式海岸で定置漁業に適しているため
的に有名であり漁業権数三九四に及んで
る。定置漁業は魚の回遊地を選び網を張り大
きな定置は一日に二回小さい定置は三
回網をあげる。岩手県で一番有名
なものは小壁漁場である。
(写真は宮古魚市場の)
水揚の盛況



宮古港の突棒船 突棒漁業は岩手県の特徴で、夏期はカヂキ冬期間はイルカ等を獲る。突棒船は十屯から十六・七屯であつて漁物は冬期間のカジキ類は福島から千葉に夏から秋にかけては三陸沿岸に集る。カジキはモリでイルカは銃で射つて勝れた技術が要求される。宮古港は一年間に三百五十五万貫の水揚があり漁業の中心地である（長島要之助氏撮影）



り冷凍製氷・水産加工場・造船所があり加えて釜石線全通により交通も便になり輸送も解決されている (桜田耕一氏撮影)



漁場

今 尾崎社祭り 尾崎社信仰は三陸海岸の人々に篤く信仰されている海の護り神様である。その内でも釜石の尾崎祭りは最も盛んである。傳承では鎌西八郎為朝の子、島の冠者為頼が閉伊郡に還れて閉伊頼基となり宮古に住し閉伊郡を領知した。この人の徳を祀つて尾崎大明神と祀り海上安全祈願をしたのが創りと称される。



④ 津軽石川のサケ 産卵のためサケは三陸沿岸
の大小各河川にのぼつてくる 中でも津軽石
川・大槌川のサケ漁業は有名である



カツオブシ工場 カツオの最盛期には婦人の手でカツオブシがつくられる



と針で釣り上げるカツオ釣りはいきましい



五味濃吉画伯画

